

「門真市版授業スタンダード」の改訂に向けて（教育センターだよりから抜粋）

3月に次期学習指導要領が示されました。今よりもさらにグローバル化し、複雑化した未知の課題に取り組まなければいけない時代である「2030年の社会」を大人として生きる子どもたちに対して、学校は必要な力をどう育てていくのか、その一つの答えが提案されたのだとも言えます。これまで大切にされてきた知識・技能の定着に加えて、世界の人と共に生き、困難な課題を解決する力の育成、そして、課題そのものを発見できる力の育成を目指し、学ぶ内容だけでなく、どのように学ぶか、学んだことによって何ができるのかまで視野に入れた、新たな概念が提案されています。

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善によって、「主体的・対話的で深い学び」を実現すること、学校の年間指導計画などを点検しながら、実効性のあるカリキュラム・マネジメントに取り組むことなどが示されていますが、その本質は子どもに上記のような力をつけることであると理解すれば、私たちの授業づくりの方向性も見えてくるのではないのでしょうか。このような次期学習指導要領の内容も見据えながら、より良い授業スタンダードに改訂していきたいと考えています。

Plus（現行「授業スタンダード」の良いところ）

- ・ゴールを意識した授業づくり「めあて」「振り返り」
- ・ペア・グループ活動を効果的に取入れた授業づくり
- ・学習（言語）環境の整備
- ・学習規律の徹底
- ・子ども主体の授業づくり
- ・「めあて」「振り返り」の設定

Addition（「改訂版スタンダード」に付け加えたい）

- ・学習指導要領の学年系統性をふまえ指導にあたる
- ・授業計画と事前の準備
- ・集団づくりの大切さ
- ・学習規律の徹底に向けた意識改善
- ・次時への展望
- ・学習内容の定着

Minus（「授業スタンダード」の無理のあるところ）

- ・毎時間のペア・グループ学習の難しさ
- ・基礎基本の徹底する時間の確保
- ・学習環境の整備

「改訂版授業スタンダード」で重要とされるべきものは何か、価値観を共有するために上の項目についてランキングをしていただきました。ご協力ありがとうございました。各校のランキングを点数化して集約しましたので、上位の項目とその理由をお知らせします。

◎今も、これからも大切にしたいこと

（現行「授業スタンダード」の「良いところ」であり、かつ、ランキング上位の項目）

○ゴールを意識した授業づくり「めあて」「振り返り」

- ・その授業時間で何を学ばせたいのか、どんな力を身につけさせたいか、すべてがめあてに集約され、振り返りでその確認ができる。
- ・学習指導要領に則り、学習のめあての確認をすることで、授業のゴールが見えてくる。それにより、授業者がその授業で児童につけさせたい力を明確にすることや児童がその授業の流れについて見通しがつく。
- ・ゴールが定まっていないとどのように指導するかブレる。
- ・目標を持たせて授業に取り組み、振り返りで自己評価をすることで深い学びにつながる。

○学習規律の徹底

- ・学習用具やルールを揃え、同じスタートラインから学習に臨むことができるように学習環境を整える。
- ・心を落ち着かせ授業に集中できるようにするためには、学習環境や規律をきちんと整えておく必要がある。
- ・教科や教師、小から中へ変わっても、授業の規律が統一されていることで、ギャップなく授業を受けられる。

○子ども主体の授業づくり

- ・子ども達が主体的に考え、取り組む授業を目指すことで、学習意欲の向上や学力向上につながる。
- ・自ら学ぶ力をつけてあげることが大切である。
- ・教えたことを子ども自身に気づかせ、能動的に活動させる授業づくりが重要である。
- ・つながり合って学ぶことで、楽しく学ぶことができる。

◎これから、新たにスタンダードとして取り組みたいこと

(「改訂版授業スタンダード」に「付け加えたい」項目であり、かつ、ランキング上位の項目)

○集団づくりの大切さ

- ・学校生活において基本となっているのが学級集団、学年集団であり、ペア・グループ学習や、主体的な子どもの学びを育むうえでも、互いを認め合い、助け合えるよりよい集団づくりは必要不可欠である。
- ・学習する前提として、子どもたちが安心して生活できる環境を整備してあげることが大切である。
- ・学習と集団づくりは「両輪」である。低・中位層の活躍により、より多くの子どもたちの理解が広がる。
- ・安心して学習できる環境づくり、失敗しても許される雰囲気づくりが大切である。
- ・自分の思いや考えを自由に発表できる人間関係がないと、全員が活躍できる授業に至らない。

○学習指導要領の学年系統性をふまえ指導にあたる

- ・授業を組み立てるうえで、1時間のみでなく、単元そのものの系統性を見通して計画することが重要。
- ・授業者は学習内容の本質を知り、計画・準備をする必要がある。その際、「何を教えるのか」等、学年系統性をしっかりと理解しておくことが必要。
- ・「何を教えるのか」を指導者として明確な方針、方向性が重要となる。目指す方向性、学ばせるべき力の共通理解により、ぶれない授業が組み立てられる。
- ・小中一貫教育の充実が大切である。

○授業計画と事前の準備

- ・教師が学ばせるものを明確に持っていないと授業は成り立たない。
- ・単元を通した授業計画を立て、準備しておかないと子ども主体の授業づくりができない。授業計画によって授業の質を高める(深める)ことができる。
- ・付けたい力を明確にし、見通しを持つことで段階的な対応が可能となる。



◎この部分は、改善したいこと

(現行「授業スタンダード」の「無理のある」項目であり、かつ、ランキング上位の項目)

○毎時間のペア・グループ学習の困難さ

- ・ペアやグループ学習は多様な学びにつながるものである。しかし、活動のねらいに応じて取り入れるものであり、毎時間の授業において必ず取り入れるものではない。
- ・基礎基本の定着を授業で図らなければ、学力として定着しない。その先に、学び合いや話し合い活動がある。

門真市版授業スタンダード改訂に関する今後のスケジュール(予定)

今回のランキングも反映させて、次年度は授業スタンダードを改定します。より良いものにするため、今後も学校や学力向上担当者会と連携していきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

今後の学習指導要領改訂スケジュール (現時点の進捗を元にしたイメージ)							
28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	
小学校	答申・改訂	周知	特別の教科道徳 教科化スタート 先行実施	教科書 検定	採択・ 供給	使用 開始	32年度～ 全面実施
		中学校	周知	特別の教科道徳 教科化スタート 先行実施	教科書 検定	採択・ 供給	使用 開始
門真市版授業スタンダード改定の動き							
現行の 授業スタンダードの 総括	改訂版 授業スタンダードの 作成	改訂版授業スタンダード の周知・研修				改訂版授業スタンダードの定着	

